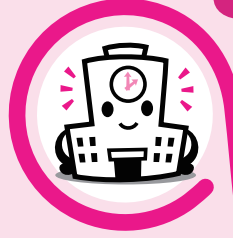


つながる



学校と家庭の学び

家庭での会話が弾み

国語力が伸びる「日の出っ子ノート」

福岡県春日市立日の出小学校

春日市立日の出小学校では、連絡帳と日記帳を兼ねる「日の出っ子ノート」を学校全体で活用している。保護者用のコメント欄を設け、児童の学校での様子を把握出来るようにしたことで、家庭での親子の会話が増えたという。

親子の会話のきっかけとして「日の出っ子ノート」を活用

福岡市に隣接する春日市北部にある日の出小学校は、1999年に開校した新しい学校だ。地域の人々の期待は大きく、教育活動にも協力的だという。

同校は2005年度、文部科学省からコミュニティ・スクール（地域運営学校）に指定された。地域の意見を聞くために保護者を対象に行ったアンケートでは、学校を介して親子の交流を促す取り組みを希望する

声が目立った。この結果を受け、1日1回は親子で会話することを呼び掛ける「一日一話運動」を開始。更に06年度からは、連絡帳と日記帳を兼ねる「日の出っ子ノート」（図1）を全校で導入。親子の会話のきっかけとなるように活用している。

ノートは1週間が見開きになっており、左ページには翌日の時間割や持ち物などを、児童が帰りの時間に記入する。右ページには、日記、自己評価、保護者のコメント欄があり、児童はノートを持ち帰って日記と自己評価を書く。保護者がそれを読み

でコメントすることにより、子どもの学校生活の把握と家庭での話題作りに役立ててもらおうというわけだ。

ノートは翌朝、担任に提出する。教師は内容を確認して判を押し、帰りの時間に返す。あくまでも児童と保護者のコミュニケーションツールというスタンスのため、教師はコメントを書かない。

また、日常生活の規範や長期休暇の過ごし方を書いたページも設け、家庭生活の目安にもなっている。「日の出っ子ノート」は導入から5年目となり、既に保護者の間でも

定着したという。その理由を井口司校長（当時）は次のように説明する。

「毎年4月に行う保護者との懇談会では、『日の出っ子ノート』の目的や使い方、前年度からの変更内容などについて時間をかけて説明します。学校で教えた知識や習慣の定着には家庭での実践が大切であることも述べ、『学校と家庭で役割を分担して児童を育てましょう』と、理解と協力を求めています。また、親子の会話が増えたり書く力が伸びたと保護者が実感しているのも、このノートが続いている理由の一つです」

自主学習の手引き部分は ノートからあえて分離

「日の出っ子ノート」は、毎年少しずつ改訂し、運用方法にも変更を加えてきた。現在のノートの特徴は

次のようにまとめられる。
1. **児童の思考の流れに沿った構成**
当初、自己評価欄は左ページにあったが、左ページに学校で書く項目、右ページに自宅で書く項目をまとめ、左から右へと書き進める形に変更し

図1 日の出っ子ノート(中学年用)

見開き2ページを1週間で使う。日記は、低学年は3行、中・高学年は5行を書く。自己評価欄「振り返りシート」は、○を1点、×を0点として一週間の合計点を算出し、最終的に年間合計点を出す。点数の集計と分析は、学校運営に参画する地域・保護者が行い、教師の負担軽減につながっている



「日の出っ子ノート」(一部)は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます
<http://view21.jp/s0141/>

福岡県春日市立日の出小学校

©1999(平成11)年、春日北小学校より分離独立。05年度に「コミュニティ・スクール」の指定を受け、学校、家庭、地域が一体となった「響育」を実践。式典では三者の三部合唱による校歌が歌われる。

校長 清武直人先生(2010年4月から)
児童数 380人
学級数 14学級(うち特別支援学級2)
所在地 〒816-0873
福岡県春日市日の出町3-1-10
TEL 092-572-4451
URL <http://www.edu.fit.ac.jp/thinodee>



春日市立日の出小学校校長

井口 司

Iguchi Tsukasa

「学校・家庭・地域が一丸となり実効性のある取り組みを、効率的に、でも一歩一歩着実ににつづきたい」



春日市立日の出小学校

江口尋信

Eguchi Hironobu

4学年担任
「授業研究と子どもに向き合う時間の両方をたくさん作り、もっともっと子どもを伸ばしたい」

- た。導入時からノート作成にかかわっている江口尋信先生は、その理由を次のように説明する。
- 「日記を付けてから自己評価をし、その日の自分を改めて振り返るといふ思考の流れを重視しました。記入ページを学校と自宅に分けてあるので、書き忘れも防げます」
2. **前期・後期で分冊化**
ノートはB5判で、前期と後期で1冊ずつ使う。1年目はA4判で年間1冊だったが、ランドセルにしまいにいく、1年を通して毎日使うと傷みが激しいため、分冊にした。
3. **保護者の負担を減らす配慮**
保護者がコメントしやすいように、学級だよりに記入例を掲載した。保護者が忙しくてコメントが書けない
- 場合には、一言だけ、あるいはサインだけでも良いことにしている。
4. **担任の負担も軽減**
当初は教師が書いていたコメント欄を保護者用とし、教師は判を押しのみと改めた。
- 「毎日、授業の合間にクラス全員分のコメントを書くのは教師にとって相当な負担です。また、『親子のコミュニケーションツール』という元来の目的からも、保護者がコメントを書いた方が良くと考え、保護者にも説明し、ご理解をいただきました。もちろん、保護者から相談や質問があった場合は返事を書くなど、柔軟に対応しています」(井口校長)
5. **「学問のすすめ」ページを分離**
09年度までは、学習態度や家庭学

*プロフィールは取材時(2010年3月)のものです

習の仕方などを示したページ「学問のすすめ」(図2)が含まれていたが、10年度は、ノートとは別にプリントとして家庭に配布した。

「児童の様子から、ノートにとじ込むだけでは読み返すことが少なく、効果は薄いと感じました。家で勉強

図2 学問のすすめ(中学年用)

学問のすすめ		-3・4年生の学習内容の指針(めやす)-	
学年		3年生	4年生
国語	読み	○声を出して教科書や学校で買った音読集等をくり返し読みましょう。 ○リズムよく、「で」はその人物になりきって読むことができるように練習しましょう。暗唱に挑戦してもいいですね。 ○最低15分は読みましょう。いろいろな分野の読みものを幅広く読みましょう。	○声を出して教科書や学校で買った音読集等をくり返し読みましょう。 ○リズムよく、「で」はその人物になりきって読むことができるように練習しましょう。暗唱に挑戦してもいいですね。 ○最低15分は読みましょう。いろいろな分野の読みものを幅広く読みましょう。
	書き	漢字の読み (240+)新しい漢字は200字です。 複写・転写 日記 (240+)200字 漢字 (240+)200字	(440+)新しい漢字は200字です。 本を見ながら、聞きながらノートに書き写す速さは、1分間で25文字以上書くことが必要です。練習しましょう。 日記 (440+)200字 ドリル(スキル)や教科書を使ってくり返し、ノートに練習をしましょう。 「へん」「つくり」等も知って書けるようにしましょう。
	計算	計算スキル きまり・公式 道具等	○その日に習ったノートやプリントをみて、似たような問題をやってみよう。 ○今まで習った所のドリル(スキル)を繰り返し練習しよう。 ○図形のきまりや単位などはしっかり使って、覚えよう。 巻き尺、三角定規が使えるようにしましょう。
	その他	暗記 覚えよう 情報収集 観察・実験	コンパスや分度器が使えるようにしましょう。 ○九州の県名、○山地や川、海の名前、○日本の地方名、○並列・並列のつなぎ、○夏の大三角形等 調べ学習では、インタビュー・図書資料を使って調べることができるようにしよう。 調べる学習では、インタビュー・図書資料を使って調べることができるようにしよう。 乾電池を使った豆電球の点灯法 乾電池でモーターを回す

続けることで「書くこと」に慣れ
国語力が向上

机の前に貼り出せるように、画用紙に印刷して配っています(江口先生)

「日の出っ子ノート」に関して、

家庭学習の毎日の目安となるよう、低、中、高学年別で作成。具体的に数字を示すのが特徴で、漢字の書き取りでは、3年生が440字、4年生が640字を目標としている *一部編集部が加筆修正



「学問のすすめ」は、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロード出来ます
<http://view21.jp/s0142/>

保護者からは、「子どもへの理解が深まった」という意見が多い。普段の学校生活が良く分かるだけでなく、友人関係や勉強の悩みなどを日記から読み取り、解決のために親子で話し合うこともあるという。

成果は児童の学力にも現れている。「何を日記に書けば良いか分からない」と言っていた児童も、毎日書くうちに、書き方も書く内容も自分で工夫し、次第に個性が現れてくるようになりました。09年度の学力検査では、国語力、文章力が伸びていました(江口先生)

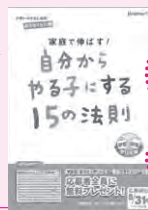
10年度は、ノートの目的として、新たに「学力向上」を加えた。既習の漢字を使い、日記を書いたら読み返して表現を確認するように指導している。保護者にも、今まで以上に漢字や文章の書き方にも注意して目を通して欲しいと呼び掛けている。

「夏休み前の保護者会ではノートを使って生活上の留意点を説明したり、ノートを夏休みの読書カードの代わりとして、日記部分に感想を書かせたりしています。より使いやすく、子どもの力が付くように今後も改良を続けたいと思っています(井口校長)



ベネッセは、**「学校&家庭 学び応援プロジェクト」**を実施しています。

お申し込み受付中



保護者向け冊子
無料

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2009年度は、のべ約8,200校から約125万冊ものお申し込みをいただきました。

2010年6月は、「子どもに自ら学ぶ力を付ける」をテーマとした保護者向け無料冊子のお申し込み受け付け、また、ご家庭からは夏休みに子どもの漢字力を付ける「漢字ばっちりポスター」のお申し込み受け付けを行います。貴校の教育活動にぜひお役立て下さい。

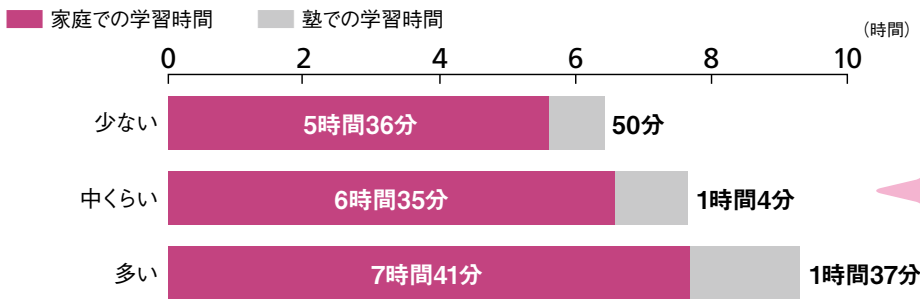
「家庭で伸ばす! 自分からやる子にする15の法則」

学校&家庭 学び応援プロジェクト
ホームページ
<http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>



家庭での会話が多いほど学習時間が長い

小学4～6年生の1週間の学習時間(親子の会話量別)



保護者との会話量が「多い」子どもは、「少ない」子どもよりも1週間あたりの家庭学習時間が2時間長い

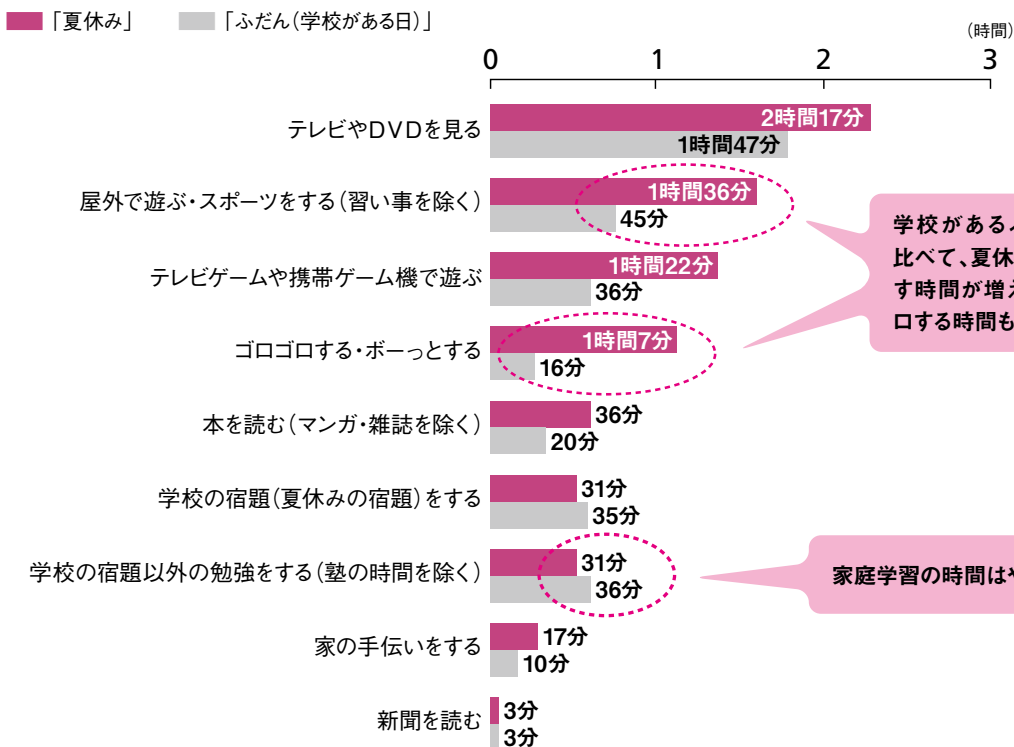
注) 会話量は、父親との会話と母親との会話のそれぞれについて、「よく話をする」を4点、「ときどき話をする」を3点、「あまり話をしない」を2点、「ぜんぜん話をしない」を1点として合計し(10～40点に分布)、これを各グループがほぼ均等になるように「少ない」「中くらい」「多い」の3グループに分けた

出典: Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」

調査時期は2009年8月～10月、調査対象は全国の小学4年生～高校2年生(うち小学生は3,561人)、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査

夏休みは「ゴロゴロ」「ボーっと」が50分増加

小学5、6年生の生活時間(夏休みと学校がある日との比較)



学校があるふだんの生活と比べて、夏休みは身体を動かす時間が増える一方、ゴロゴロする時間も増加

家庭学習の時間はやや減少!

注) *「ふだん(学校がある日)」は、Benesse教育研究開発センターが2008年に実施した「放課後の生活時間調査」の値を使用

*「学校の宿題(夏休みの宿題)をする」と「学校の宿題以外の勉強をする(塾の時間を除く)」は、「放課後の生活時間調査」ではそれぞれ「学校の宿題をする」、「学校の宿題以外の勉強をする」の値を使用

出典: Benesse教育研究開発センター「小学生の夏休み調査」

調査時期は2009年9月、調査対象は全国の小学1年生～6年生の子どもをもつ母親4,644人、調査方法はインターネット調査



上記の関連データはコチラ!
<http://view21.jp/s0143/>